



令和6年3月1日  
目黒区立第二上目黒保育園長

子どもたちの遊び場、児童遊園の河津桜が鮮やかに咲き、左右に伸びた枝ぶりは両手を大きく広げているようにも見えます。そこかしこに春の訪れを感じながら、時の流れの速さも実感しています。

年長児が日替わりで数名ずつ、事務所で昼ご飯を食べる日を設けました。『会食』と名付けたその日をとても楽しみにしていたようで、どんな嬉しい事やお楽しみが待っているか、子どもたちの間でじわじわと情報が広まっていた。小学校に関する話ではランドセルの色を詳しく説明したり、通学にどの道を通るか身振り手振りで伝えたり、その子の知り得る言葉で自分について話す姿が見られ、成長した喜びを噛みしめながら楽しい時間は過ぎていきました。

“イヤイヤ”も“自分で”も、床にひっくり返るくらいの激しい自己主張も全て日頃のご家庭での粘り強い受け止めがあるからこそ、相手を許容することや違いを認められる力がどのクラスの子どもたちにもついてきていることを感じます。卒園間近の年長児の姿は大切に育まれた乳児期の先にあり、自分を認めてくれる大人や支えてくれる友達の存在があることで、子どもたちの世界は豊かに広がっていくと感じています。

保育園は卒園と進級、入園準備が同時進行です。「もうすぐ一年生」「もうすぐ〇〇組になるんだ」と誕生日と同じくらい待ち望む子どもたちの前向きな姿と成長を、保護者の皆様とともに喜び合いたい3月です。



ひなまつり集会（3・4・5歳児クラス）

卒園お祝い会（5歳児クラス）

お別れ遠足（3・4・5歳児クラス）

移動日

お別れ会

中旬 身体計測 避難訓練



## はばたいて かがやいて おっきくジャ～ンフ。

ひまわりぐみ（5歳児クラス）

5歳児クラスの一年間、園内の様々なお手伝いをしてきましたが、特に張り切って取り組んでいたのはコット敷きです。用務職員と一緒にいき、その度に「ありがとう」「助かるなあ」という言葉をかけられることで頼りにされていることや役に立つ喜びを感じてきました。他クラスの友達が困っていたり泣いていたりすると、腰をかがめ目線を合わせて「どうしたの」「ひまわりさんと一緒にやる」と自ら話しかける等、お手伝いを通して培った“誰かの役に立ちたい”という気持ちで周囲の友達とも関わるようになっていきます。卒園に向けて一年を振り返る機会があると「どの行事も緊張した。でも、隣にいた友達が笑いかけてくれたから大丈夫、できると思った」「お家の人『大丈夫だよ』って言ってくれたから頑張れた」等と印象的な出来事を思い出しています。

様々な人と関わり、優しさや思いやりに触れる中で自分の力を十分に発揮できたのだと思います。相手のことを思い、考えて行動したり、仲間と力を合わせたりしながら助け合う年長児へと成長しました。

# 心も、そして体も すすすくのびのびの一年間

## つぼみぐみ（0歳児クラス）

器に入ったチェーリングを混ぜたり、食べる真似をしたりして食事のイメージを再現している子がいると、別の子が傍でその様子を見ています。すると、その子の口元にスプーンを運んで食べさせる仕草を見せ、スプーンを差し出された子も「あ〜んっ」と食べる真似をして、何度も繰り返して笑い合っていました。保育士との関わりが土台となり、安心感や自信を持って友達との世界にも入り始め、子ども同士のやりとりがどんどん増えてきています。

子どもたちと一緒に遊びながら、やり取りの楽しさにつながるように仲立ちしていきます。

## ちゅうりっぷぐみ（1歳児クラス）

「いっぱい使いたい」「これじゃいやだ、あれがいいの」とたくさん自己主張しながら遊んできました。自我が花開く時期と重なり、保育士は“一人ひとりの願いを叶えるためには”と考える毎日でした。自分の気持ちが受け止められることで満足感を感じられると“友達も使いたいんだな”と少し相手の気持ちに気付き「いいよ」と譲ってくれる姿もあります。同じ空間でそれぞれの遊びを楽しむ『並行遊び』の段階を経て、今では友達とやり取りしながら一緒に遊ぶ場面も増えていきます。

友達と過ごす楽しさを感じ、互いに笑いながら遊ぶ姿に心の成長を感じます。



## たんぼぼぐみ（2歳児クラス）

友達が作って遊んでいるものが素敵で「どうやって作るの」と聞きながら一緒に遊んだり「赤が欲しいから貸して」と思いを言葉にして伝えられるようになりました。最初の頃は「だめよ」と主張し、断ることが多かった子も「使っているから待っててね」「終わったらいいよ」「この色ならいいよ」と切り返す場面が見られます。保育士を介して相手の思いを知り、受け入れようとする姿がやり取りの中に多く見られるようになりました。

保育園での共通の経験も重ねながら、友達と一緒に同じイメージの世界で遊ぶ楽しさをたくさん感じている子どもたちです。

## さくらぐみ（3歳児クラス）

絵合わせゲームをしていた時、カードが取れず浮かぬ表情の子がいました。「なんで取れないんだろう」というつぶやきを聞いて、一緒に遊んでいた子が「よく見るとわかるよ」とアドバイスしていました。さり気なくヒントをもらうことでようやく一組のカードを取ると、嬉しさで友達が助けてくれた心強さに、先程までの浮かぬ表情から一変して「やったあ」と大喜びでした。周りの子も「やったね」と自分のことのように盛り上がっていました。

保育士が仲立ちしながら子どもたちの関わりを見守ってきたことで、相手の気持ちに気付いたり共感して喜んだりする姿が見られるようになりました。

## すみれぐみ（4歳児クラス）

散歩先でやりたい遊びとして『どろけい』と『かたち鬼』の2つが出ました。かたち鬼希望の子が「今日はどろけいでいいよ」と譲ると「〇〇ちゃんはどうせやりたいたね。□□ちゃんかたち鬼をやりたいたね。半分ずつやるのはどうかな」と友達の思いを汲み取って意見を言う子がいました。その投げかけに周りの子も「それがいいね」と笑顔で納得しました。まだまだ気持ちのぶつかり合いはありますが、相手の思いを受け入れて折り合いを付けたり、友達の立場になって考え、話し合う姿も見られるようになりました。

日々の生活や遊び、行事で関わる中で友達の存在が益々大きくなり、一緒に進級する喜びや期待へとつながっています。